

槇尾山鳥獸保護区

鳥獸保護区更新調査業務  
報告書

令和2年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

# 目次

## 内容

1. 調査の目的	1
2. 調査区域及び調査対象	1
3. 調査内容	2
4. 調査地の概要及び環境	2
5. 調査方法	3
6. 調査範囲・調査地点	3
7. 調査結果	5
7-1 現地調査結果	5
7-2 文献調査結果	14
8. まとめ	19
9. 参考文献	24

## 1. 調査の目的

この調査は、大阪府が指定した既存鳥獣保護区のうち、槇尾山鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

## 2. 調査区域及び調査対象

槇尾山鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。槇尾山鳥獣保護区の範囲を図 2-1 に示す。

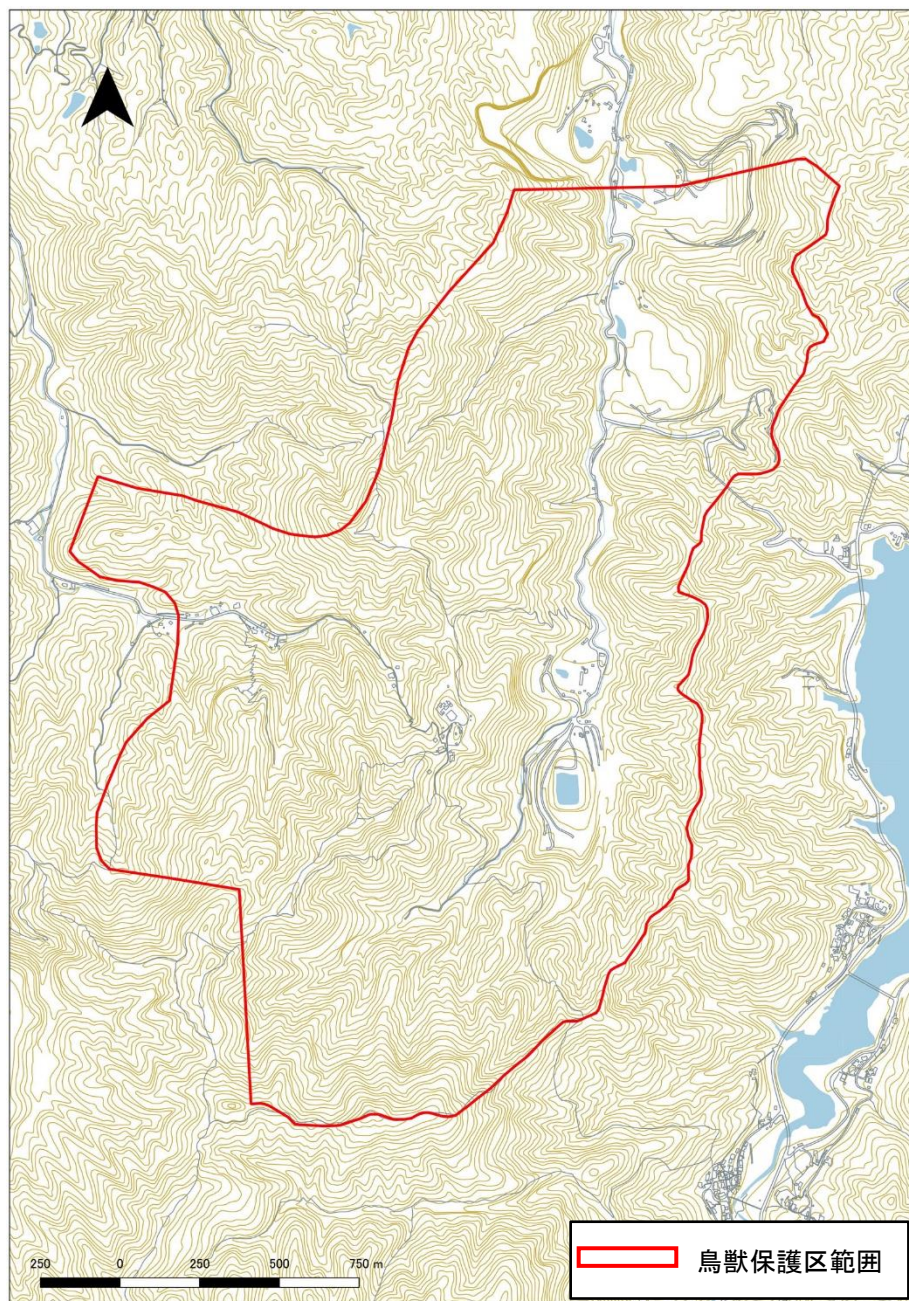


図 2-1 槇尾山鳥獣保護区の範囲

### 3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、生息密度、特色
- ・ 利用状況（施設利用者数など）

### 4. 調査地の概要及び環境

槇尾山鳥獣保護区は大阪府南部和泉市と和歌山県を隔てる和泉山脈の東部に位置する槇尾山（標高600m）を中心とした保護区である。保護区内は施福寺以外の建造物や住宅はほとんどなく標高200～600m前後の山々に囲まれており、面積は約399haである。また、保護区内には中央部から西北部にかけて槇尾川が、施福寺の東部には東槇尾川が流れているが、いずれも流量が少ない溪流となっている。なお、東部には河内長野市所在の滝畑鳥獣保護区（面積約656ha）が、北部には天野山鳥獣保護区（面積約348ha）が隣接している。

保護区内の植生としては、施福寺周辺ではスギ・ヒノキ植林やシラカシなどの照葉樹林で構成されており、北部に位置する兜卒岳にはアカガシやアラカシなどの照葉樹林が保存されている。それ以外ではスギ・ヒノキ植林を中心にコナラ・クヌギ・アカマツなどの二次林の雑木林が点在する環境となっている。樹木は主な種類だけで100種以上存在し、カギカズラなど府内では分布が局所的な樹木も自生している。草本類も豊富で、春にはヤマドリソウやスマレ類、ホウチャクソウなどが、夏にはユキノシタやウバユリ、ササユリなどが、秋にはヤマジノホトトギスやヒヨドリバナ、アキノキリンソウなどの山野草が見られる。また、ミスミソウやウチョウラン、ツメレンゲなどといったレッドリスト掲載種も残されている。保護区内の動物類として、哺乳類ではムササビやニホンリス、タヌキなどが生息し、両生類ではタゴガエルやカジカガエルなど、爬虫類ではヤマカガシやヒバカリなどが見られる。また、当鳥獣保護区周辺を流れる槇尾川・東槇尾川は水量こそ少ないながらも良好な水質を保っており、タカハヤやカワムツ、カワヨシノボリといった魚類が生息するほか、水生昆虫も数多く生息し、ムカシトンボなどの希少種も見られる。こうした多様な環境と多くの動植物を有することから隣接する天見・滝畑・岩涌山とともに大阪府の生物多様性ホットスポットのAランクに指定されている。

当保護区の槇尾山施福寺は行満上人が開いたとされる古刹で、西国三十三ヶ所の第4番札所として名を連ね、参拝者が後を絶たない。槇尾山は金剛生駒紀泉国定公園に指定され、ダイヤモンドトレールが整備されており、登山や自然観察目的に訪れる人々も多い。また、保護区に隣接する和泉市立青少年の家は休日には利用者で賑わっている。

参考：「槇尾山鳥獣保護区指定調査報告書-平成21年度-」（大阪府，2010）

参考：「槇尾山自然観察マップ」（Nature Network 和泉，2000）

参考：「西国三十三所巡礼の旅」<http://www.saikoku33.gr.jp/place/4>（2021年2月17日アクセス）

参考：「大阪の生物多様性生物ホットスポット-多様な生き物たちに会える場所-」（大阪府，2016）

## 5. 調査方法

調査は、現地調査及び文献調査により実施した。

重要種の選定に当たっては、表 5-1 に示す基準を用いた。

表 5-1 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府RL）

## 6. 調査範囲・調査地点

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察および任意観察により、繁殖期及び越冬期に実施した。

ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥類を記録した。調査ルートは、府道 228 号線の施福寺駐車場付近からスタートし、山頂へ続くルート(2km)を設定した。定点観察はラインセンサスルートの始点と終点付近の比較的通視の良い地点を選定して、それぞれ 15 分間の定点観察を行い出現した鳥類を記録した。任意観察では、局所的な環境の生息種や、猛禽類など広域な生活基盤を持つ種の生息状況を意識し、保護区内の要所を任意に歩いて確認された鳥類を記録した。定点調査の記録は任意調査記録として記載した。

ラインセンサスに用いたルート及び定点観察に用いた地点（定点 1、定点 2）は図 6-1 に示す通りである。

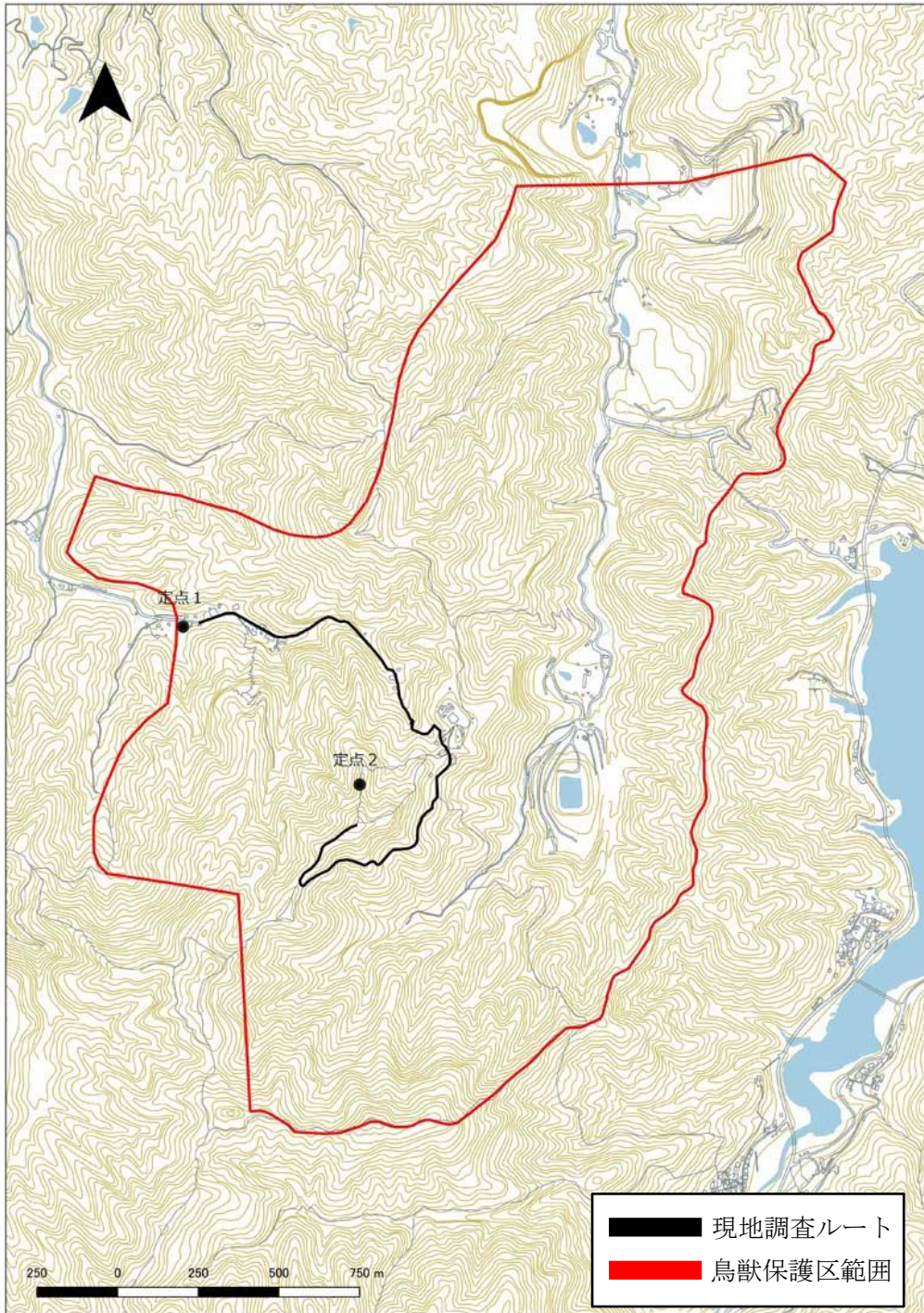


図 6-1 調査地点図

## 7. 調査結果

### 7-1 現地調査結果

#### ① 調査時期・天候・時間

現地調査・任意調査時期、天候、調査時間を表 7-1 に示す。

表 7-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
			調査時間	調査時間
繁殖期	令和 3 年 6 月 23 日	晴れ	定点 1	6:40 ~ 6:50
			ルート	7:00 ~ 8:40
			任意 1	9:00 ~ 9:10
			定点 2	9:15 ~ 9:30
			任意 2	9:40 ~ 12:10
越冬期	令和 2 年 1 月 10 日	晴れ	定点 1	8:30 ~ 8:40
			ルート	8:40 ~ 10:10
			定点 2	10:30 ~ 10:40
			任意 3	10:45 ~ 13:00

#### ② 鳥類確認種

現地調査の結果、7 目 22 科 44 種の鳥類を確認した。確認種を表 7-2 に示す。

現地調査で確認した鳥類の生息区分は、留鳥 22 種、夏鳥 13 種、冬鳥 8 種、外来種 1 種であり、留鳥 52%、夏鳥 23%、冬鳥 21%、外来種 5%と、一年を通してみられる留鳥が半分以上を占めた (図 7-1)。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」(2017 年 3 月 31 日, 日本野鳥の会大阪支部) に従った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	22 種	50%
夏鳥	13 種	30%
冬鳥	8 種	18%
外来種	1 種	2%

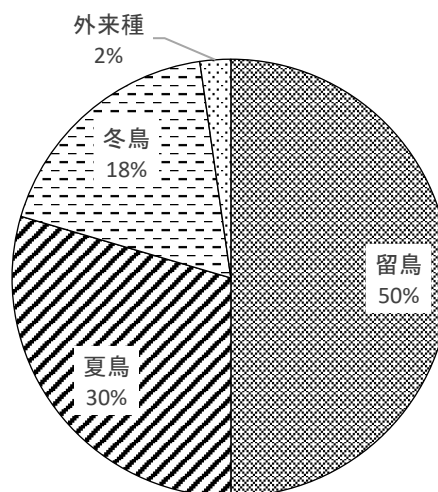


図 7-1 現地調査確認種 渡り区分の内訳

表 7-2 現地調査 鳥類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	繁殖期	越冬期	渡り区分
1	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○		留鳥
2			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト		○	留鳥
3	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		夏鳥
4			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○		夏鳥
5	タカ	タカ	<i>Milvus migrans</i>	トビ	○		留鳥
6			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		夏鳥
7			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		留鳥
8	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ		○	留鳥
9	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	留鳥
10			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○		留鳥
11	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○		留鳥
12	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○		夏鳥
13		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○		夏鳥
14		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ		○	留鳥
15		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	留鳥
16			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	留鳥
17		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	留鳥
18			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	留鳥
19			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	留鳥
20		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○		夏鳥
21			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○		夏鳥
22		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	留鳥
23		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	留鳥
24			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○		夏鳥
25		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	留鳥
26		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		夏鳥
27		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	留鳥
28		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	留鳥
29		ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		夏鳥
30			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ		○	冬鳥
31			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ		○	冬鳥
32			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		夏鳥
33			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○		夏鳥
34			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○		夏鳥
35		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ		○	冬鳥
36			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	留鳥
37			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ		○	冬鳥
38			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○	冬鳥
39			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ		○	冬鳥
40			<i>Eophona personata</i>	イカル	○		留鳥
41		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○		留鳥
42			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ		○	冬鳥
43			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ		○	冬鳥
44		チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	外来
合計	7 目	22 科	43 種		33 種	24 種	—

分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。



### ③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された 20 種については、いずれも保護区周辺で繁殖している可能性がある（繁殖ランク C に該当）。このうち 16 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され、保護区内で繁殖している可能性が高い。その内訳は表 7-3 に示すとおりである。繁殖行動の判定基準は、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク (NPO 法人バードリサーチ, <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>) に準じた。

表 7-3 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認した) 2 種	21	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちビナを見た	ヒガラ、メジロ
B (繁殖の確認はできなかったが、繁殖の可能性はある) 18 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり (キツキ類のドラミングを含める) を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	キジバト、ホトトギス、サンコウチョウ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、ミソサザイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル、ソウシチョウ
	33	威嚇行動、警戒行動により、付近に巣又はヒナの存在が考えられる	サシバ
	34	巣があると思われるところに成鳥が訪れた。ただし、そこが埒 (ねぐら) である場合は除く	ハヤブサ
	39	かなり移動可能と思われる巣立ちビナを見た	カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ
C (生息を確認したが、繁殖の可能性は、何とも言えない) 13 種	50	その種が営巣しうる環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし、冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	クマタカ、コゲラ、サンショウクイ、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、エナガ、コサメビタキ、カワラヒワ
	51	繁殖期に鳴き声を確認したが、さえずりかどうかわからない	ツツドリ、トビ、アオゲラ、ホオジロ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク (2014, NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>) を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ 鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、3目12科23種134羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回毎の個体数を表7-4に示す。繁殖期では16種75羽、越冬期では13種59羽の鳥類の生息を確認した。繁殖期にはスギ・ヒノキ林を中心に環境を構成する本調査ルートではクロツグミ、コサメビタキ、キビタキなどの夏鳥の生息を確認できた。一方、越冬期ではシロハラやルリビタキ、ウソといった冬鳥が見られたものの、繁殖期よりは全体的に個体数が少ない結果となった。

表 7-4 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目名	科名	種名	調査ルート			総計		
				繁殖期	越冬期	計			
1	ハト	ハト	キジバト	2		2	2		
2	キツツキ	キツツキ	コゲラ	4	2	6	6		
3	スズメ	カラス	カケス	8	7	15	15		
4			ハシブトガラス		1	1	1		
5		シジュウカラ	ヤマガラ		3	3	3		
6			ヒガラ		3	3	3		
7			シジュウカラ	1		1	1		
8		ヒヨドリ	ヒヨドリ	26	20	46	46		
9		ウグイス	ウグイス	7	1	8	8		
10			ヤブサメ	2		2	2		
11		エナガ	エナガ	1		1	1		
12		メジロ	メジロ	11	4	15	15		
13		ヒタキ	クロツグミ	1		1	1		
14			シロハラ		3	3	3		
15			ルリビタキ		3	3	3		
16			コサメビタキ	1		1	1		
17			キビタキ	1		1	1		
18			オオルリ	6		6	6		
19			アトリ	カワラヒワ	1		1	1	
20				ウソ		1	1	1	
21		イカル		2		2	2		
22		ホオジロ	アオジ		8	8	8		
23		チメドリ	ソウシチョウ	1	3	4	4		
		3目	12科	23種	種数	16	13	23	23
					個体数	75	59	134	134

⑤ 鳥類の生息密度

ラインセンサス法は、設定したルート of 両側 25m 内で確認された鳥類を記録した結果であるため、ラインの距離×50m の面積中に生息する個体数を示すものである。この個体数を面積で除算することで、各種鳥類の生息密度が計算される。各期の各ルート及び、全ルートを合計した場合の、鳥類の 1ha あたりの生息密度を表 7-5 に示す。

生息密度は、群性の強いヒヨドリ、メジロなどで高くなる傾向が見られた。また、一部の種を除いて繁殖期の方が越冬期よりも総じて鳥類の生息密度は高い傾向にあった。

表 7-5 個体数密度 (羽/1ha)

種 名	繁殖期	越冬期
キジバト	0.2	
コゲラ	0.4	0.2
カケス	0.8	0.7
ハシブトガラス		0.1
ヤマガラ		0.3
ヒガラ		0.3
シジュウカラ	0.1	
ヒヨドリ	2.6	2.0
ウグイス	0.7	0.1
ヤブサメ	0.2	
エナガ	0.1	
メジロ	1.1	0.4
クロツグミ		
シロハラ		0.3
ルリビタキ		0.3
コサメビタキ	0.1	
キビタキ	0.1	
オオルリ	0.6	
カワラヒワ	0.1	
ウソ		0.1
イカル	0.2	
アオジ		0.8
ソウシチョウ	0.1	0.3
鳥類全種	7.5	5.9

⑥ 鳥類重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は4目6科7種であった。確認された重要種を表7-6、確認位置を図7-1に示す。ただし、重要種の内ハヤブサの確認位置については営巣地を示唆する情報が含まれるためここでは図示しない。

今回の調査で、国内希少野生動植物種指定種が2種、環境省レッドリスト記載種が4種、大阪府レッドリスト記載種が6種確認された。レッドリスト記載種であるツツドリ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、サンショウクイ、センダイムシクイ、コサメビタキ7種すべてが繁殖期の調査で確認され、うちサシバ、ハヤブサについては繁殖の可能性が示唆された。また、国内希少野生動植物種としてクマタカ、ハヤブサの2種が繁殖期の調査で確認された。

表 7-6 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
2	タカ	タカ	<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
3			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少	EN	CR+EN
4	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	国内希少	VU	
5	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		VU	VU
6		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
7		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
計	4目	6科	7種		2種	4種	6種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種

EN：絶滅危惧ⅡB類 (EN) IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種

VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

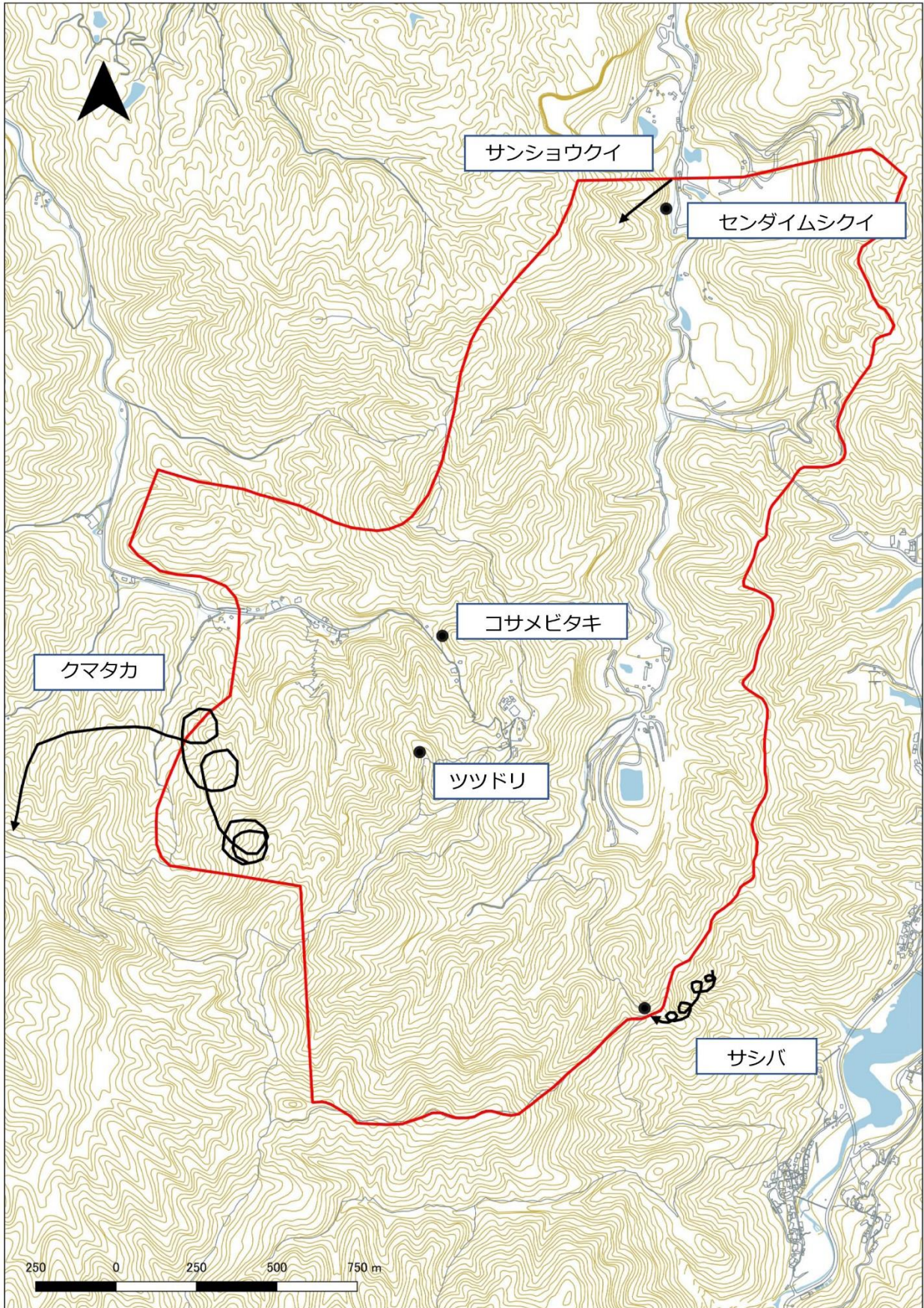


図 7-1 重要種確認位置図

⑦ 哺乳類

現地調査の結果、3目4科4種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表7-7、重要種を表7-8に示す。「種の保存法」及び「環境省RL」に該当する種は確認できなかった。

学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定2版」(東海大学出版会、2008)に従った。調査ルート中ではイノシシによるラッセル跡が多く見られた。近年、大阪府下でシカによる森林被害が報告されているが、今回の調査ではニホンジカの生息痕跡は確認できなかった。

表 7-7 現地調査 哺乳類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	確認状況
1	ネズミ目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ	巣穴
2	鯨偶蹄目	イノシシ科	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	ラッセル跡多数
3	ネコ目	イヌ科	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	タヌキ	
4		イタチ科	<i>Martes melampus</i>	テン	
合計	3目	4科	4種		

⑧ 哺乳類重要種

現地調査で確認された哺乳類のうち、重要種として、ムササビが利用していると思われる巣穴を確認した。巣穴の入り口には本種によるものと思われる噛み跡があり、その周辺の樹皮はけば立っていた。本種は樹洞がある山林内を住处としているが、近年は洞のある樹木の減少に伴って個体数が減少しているとされている。

表 7-8 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省RL	大阪府RL
1	齧歯目	リス科	<i>Petaurista leucogenys</i>	ムササビ			NT

⑨ 両生類・爬虫類

現地調査の結果、2目5科5種の両生類・爬虫類を確認した。確認された両性爬虫類を表7-9、重要種を表7-10に示す。大阪府レッドリスト掲載種のヒバカリは湿地や河川、水田など水辺を中心に生息する小型のへび類である。本種は水田などの生息環境の悪化に伴い、減少しているとされる。「種の保存法」及び「環境省RL」に該当する種は確認できなかった。

学名・分類群・配列は「日本産爬虫両生類標準和名リスト」（日本爬虫両棲類学会, 2020）に従った。

表 7-9 両生類・爬虫類確認種

No.	目名	科名	学名	種名	大阪府 RL
1	無尾目	アカガエル科	<i>Rana tagoi tagoi</i>	タゴガエル	
2		アオガエル科	<i>Buergeria buergeri</i>	カジカガエル	
3	有鱗目	トカゲ科	<i>Plestiodon japonicus</i>	ニホントカゲ	
4		カナヘビ科	<i>Takydromus tachydromoides</i>	ニホンカナヘビ	
5		ナミヘビ科	<i>Hebius vibakari</i>	ヒバカリ	VU
合計	2目	5科	5種		1種

表 7-10 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	有鱗目	ナミヘビ科	<i>Hebius vibakari</i>	ヒバカリ			VU

## 7-2 文献調査結果

文献調査は以下の参考文献を元を実施した。文献の記載概況を 7-13 に示す。また、確認された種から重要種を抜粋した。重要種の選定基準は表 7-14 に示すとおりである。

表 7-13 参考文献

文献 No.	文献名	発行年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	2017 年 3 月・日本野鳥の会大阪支部
文献 2	鳥類目録 2015 年 10 月～2020 年 9 月	2021 年 2 月・堺野鳥の会
文献 3	平成 21 年度榎尾川ダム自然環境保全対策検討業務委託報告書	2010 年 9 月・大阪府

表 7-14 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2019（環境省RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府RL）



### ① 鳥類確認種

文献調査の結果、18目43科112種の鳥類を確認した。確認種を表7-11に示す。

分類は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥54種、夏鳥18種、冬鳥24種、旅鳥10種、外来3種であった(表7-12、図7-2 文献調査確認種 渡り区分の内訳

)。現地調査と同様、留鳥の占める割合が最も高く、47%であった。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。同目録において、旅鳥(一部夏鳥)とされているコサメビタキは、現地調査における出現状況を踏まえて夏鳥とした。また、冬鳥(一部留鳥)とされているトラツグミについては、現地における確認が得られなかったため、冬鳥として扱った。

渡り区分	種数	割合
留鳥	54種	48%
夏鳥	18種	16%
冬鳥	27種	24%
旅鳥	10種	9%
外来	3種	3%

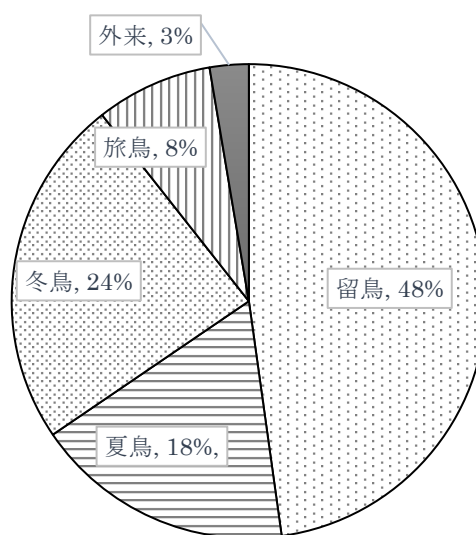


図 7-2 文献調査確認種 渡り区分の内訳

表 7-11 文献調査 鳥類確認種(1/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○			留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○	○	○	留鳥
3	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	○	○		冬鳥
4			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ	○	○	○	留鳥
5			<i>Anas crecca</i>	コガモ	○		○	冬鳥
6	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○			留鳥
7	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	留鳥
8			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○			留鳥
9	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ	○			留鳥
10	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○	○	留鳥
11	ペリカン	サギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ	○			留鳥
12			<i>Butorides striata</i>	ササゴイ	○			夏鳥
13			<i>Bubulcus ibis</i>	アマサギ	○			夏鳥
14			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○	○	留鳥
15			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○			留鳥
16			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○			留鳥
17	ツル	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	クイナ	○			冬鳥
18			<i>Porzana fusca</i>	ヒクイナ	○			留鳥
19			<i>Gallinula chloropus</i>	バン			○	留鳥
20	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>	ジュウイチ	○			旅鳥
21			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○		○	夏鳥
22			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○	○	○	夏鳥
23	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ	○			夏鳥
24	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ	○			旅鳥
25	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ	○			留鳥
26			<i>Charadrius placidus</i>	イカルチドリ	○			留鳥
27			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ	○			留鳥
28		シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ	○			冬鳥
29			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ	○			冬鳥
30			<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ	○			冬鳥
31			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ	○			冬鳥
32			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ	○			留鳥
33	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○		○	留鳥
34		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○	○	○	夏鳥
35			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○	○	○	留鳥
36			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		○		留鳥
37			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	○	○	冬鳥
38			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○	○	留鳥
39			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○	○	○	夏鳥
40			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○	○	○	冬鳥
41			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○			留鳥
42	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ	○		○	留鳥
43			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク	○		○	夏鳥
44	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○	○	留鳥
45	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	留鳥
46			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○			留鳥
47			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○	○	○	冬鳥
48			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○	留鳥
49	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ	○			留鳥
50			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○	○		留鳥
51	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	○			旅鳥
52		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○	○	○	夏鳥
53		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○	○	留鳥
54		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	留鳥
55			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○	○	留鳥
56			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	留鳥

表 7-11 文献調査 鳥類確認種(2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り区分
57	スズメ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ	○			冬鳥
58		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	留鳥
59			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	留鳥
60			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥
61		ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	ヒバリ	○			留鳥
62		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○	○	○	夏鳥
63			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○	○		夏鳥
64			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○	○		夏鳥
65		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥
66		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥
67			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○	○	夏鳥
68		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥
69		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○	○	○	夏鳥
70		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥
71		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ	○			留鳥
72		レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク	○			冬鳥
73		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○		留鳥
74		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○	○	○	留鳥
75			<i>Agropsar philippensis</i>	コムクドリ	○			旅鳥
76		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス	○			留鳥
77		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○		○	冬鳥
78			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○	○	○	夏鳥
79			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○	○	○	冬鳥
80			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ	○			旅鳥
81			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	○	○	冬鳥
82			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ	○			旅鳥
83			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ	○			旅鳥
84			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ	○			旅鳥
85			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○	○	○	冬鳥
86			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ	○	○	○	冬鳥
87			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ	○			旅鳥
88			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○	○	○	留鳥
89			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ	○			旅鳥
90			<i>Muscicapa daurica</i>	コサメビタキ	○			夏鳥
91			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	○	○	夏鳥
92			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○	○	○	夏鳥
93		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○		留鳥
94		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○	○	留鳥
95			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○		留鳥
96			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○	○	○	留鳥
97			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○			冬鳥
98		アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○			冬鳥
99			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	○	留鳥
100			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○			冬鳥
101			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ	○		○	冬鳥
102			<i>Loxia curvirostra</i>	イスカ	○			冬鳥
103			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○			冬鳥
104			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ	○			冬鳥
105			<i>Eophona personata</i>	イカル		○	○	留鳥
106		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○		○	留鳥
107			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○		○	冬鳥
108			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	○	○	冬鳥
109			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○		○	冬鳥
110	(キジ)	(キジ)	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○		○	外来
111	(ハト)	(ハト)	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)	○			外来
112	(スズメ)	(チメドリ)	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○			外来
計	18目	43科	112種		109種	53種	57種	

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は12目21科34種であった。確認された重要種を表7-12に示す。

今回の文献調査で、種の保存法記載種が4種、環境省レッドリスト記載種が13種、大阪府レッドリスト記載種が28種確認された。該当種は陸鳥25種、水鳥9種で、タカ目、ハヤブサ目等、猛禽類が多く含まれている。

表 7-12 確認された重要種

No.	目名	科名	学名	種名	種の保存法	環境省RL	大阪RL
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		DD	
1	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ	国内希少	CR	
2	ペリカン	サギ	<i>Bubulcus ibis</i>	アマサギ			VU
3	ツル	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	クイナ			NT
4			<i>Porzana fusca</i>	ヒクイナ		NT	VU
5	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
6	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ		NT	VU
7	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ		DD	NT
8			<i>Charadrius placidus</i>	イカルチドリ			VU
9			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			NT
10		シギ	<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ			NT
11			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ			NT
12			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			NT
13	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT	
14		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN
15			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
16			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT	
17			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	NT
18			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
19			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
20			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	国内希少	EN	CR+EN
21	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			NT
22			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			VU
23	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT
24	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	国内希少	VU	
25	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	国内希少	EN	
26		ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	ヒバリ			NT
27		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT
28		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
29		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ			NT
30		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			NT
31		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
32			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
33		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
計	12目	21科	34種		4種	13種	28種

CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機に瀕している種  
 EN：絶滅危惧ⅡB類 (EN) IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種  
 VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種  
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種  
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

## 8. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、18目44科113種の鳥類が確認され、そのうち35種が重要種であった(表8-1、表8-2)。
2. 現地調査の結果、7目22科44種の鳥類が確認された。各調査回の確認種数は繁殖期が33種、越冬期が24種であった。また、確認した鳥類の生息区分の内訳は、留鳥50%、夏鳥30%、冬鳥18%、外来2%と、留鳥の割合が半数以上を占め、次いで夏鳥の割合が高い結果となった。繁殖が確認された種(Aランク)は2種、繁殖の可能性が高い種(Bランク)は18種であった。  
ラインセンサス法で記録された鳥類は、3目12科23種134羽であり、繁殖期で16種75羽、越冬期で13種59羽であった。生息密度は多くの種で越冬期より繁殖期の方が高い傾向があった。
3. 文献調査の結果、18目43科112種の鳥類が確認され、そのうち34種が重要種であった。これら確認種の生息区分の内訳は、留鳥47%、夏鳥16%、冬鳥24%、旅鳥9%、外来4%であり、現地調査の結果と同様に留鳥が半分近くと一番高い割合を示したが、現地調査とは異なり次点で冬鳥が高い割合を示した。
4. 現地調査における重要種はすべて陸鳥で、種の保存法記載種は3種、環境省レッドリスト記載種4種、大阪府レッドリスト記載種6種が確認された。また、文献調査における重要種では陸鳥が25種、水鳥8種で、種の保存法記載種は4種、環境省レッドリスト記載種は12種、大阪府レッドリスト記載種は27種であった。重要種の内訳では、タカ目やハヤブサ目等の猛禽類の占める比率が高かった。
5. このように槇尾山鳥獣保護区は、一年中生息する留鳥の割合が高く、次いで多い夏鳥・冬鳥ともに山地にかけて生息する鳥類にとって好ましい環境であると考えられた。確認された鳥類の中には種の保存法によって保護されるクマタカやハヤブサなどの猛禽類が多く見られ、絶滅が危惧されている重要種サシバとハヤブサについては保護区内において繁殖している可能性が示唆された。これら猛禽類は生態系の上位を占める種であり下位の餌となる生物を捕食して生息している。これらが繁殖・生息していることは餌となる生物が多く生息するなど、地域の生態系が豊かで多様性に富んでいることを示している。さらに、鳥類だけでなく当保護区内にはムササビなどの希少な哺乳類のほか、現在は減少傾向にあるヒバカリなどの爬虫類やカエル類などの両生類も比較的多く生息していると思われ、これらを捕食する鳥類にとっても生息しやすい環境が整っていると考えられた。
6. 槇尾山山頂近くにある施福寺は西国三十三所巡礼の札所として知られており、急峻な参拝道であるにも関わらず平日でも多くの参拝客が訪れている。また槇尾山とともに「大阪みどりの百選」に選定されており、大阪府によって整備された屯鶴峰から始まる全長45kmの登山縦走路、ダイヤモンドトレールの終点にあたるため、休日には多くのハイカーで賑わっている。
7. 以上のように、槇尾山鳥獣保護区は希少な猛禽類や哺乳類が生息する府域の生物の貴重な生息地であると同時に、参拝客やハイカーが多数利用する、府民が自然とふれあえる場として非常に利用価値の高い地域であると言える。今後も保護区として更新・整備を続けることが望ましいと考えられる。

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(1/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献	渡り 区分
					繁殖期	越冬期		
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ			○	留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ			○	留鳥
3	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ			○	冬鳥
4			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ			○	留鳥
5			<i>Anas crecca</i>	コガモ			○	冬鳥
6	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ			○	留鳥
7	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト		○	○	留鳥
8			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○		○	留鳥
9	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ			○	留鳥
10	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ			○	留鳥
11	ペリカン	サギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ			○	留鳥
12			<i>Butorides striata</i>	ササゴイ			○	夏鳥
13			<i>Bubulcus ibis</i>	アマサギ			○	夏鳥
14			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ			○	留鳥
15			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ			○	留鳥
16			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ			○	留鳥
17	ツル	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	クイナ			○	冬鳥
18			<i>Porzana fusca</i>	ヒクイナ			○	留鳥
19			<i>Gallinula chloropus</i>	バン			○	留鳥
20	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ			○	夏鳥
21			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス		○	○	夏鳥
22			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ		○	○	夏鳥
23	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○	夏鳥
24	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ			○	旅鳥
25	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ			○	留鳥
26			<i>Charadrius placidus</i>	イカルチドリ			○	留鳥
27			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			○	留鳥
28		シギ	<i>Scolopax rusticola</i>	ヤマシギ			○	冬鳥
29			<i>Gallinago solitaria</i>	アオシギ			○	冬鳥
30			<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ			○	冬鳥
31			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ			○	冬鳥
32			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○	留鳥
33	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○	留鳥
34		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○	夏鳥
35			<i>Milvus migrans</i>	トビ		○	○	留鳥
36			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○	留鳥
37			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○	冬鳥
38			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	留鳥
39			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		○	○	夏鳥
40			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	冬鳥
41			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ		○	○	留鳥
42	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○	留鳥
43			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○	夏鳥
44	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○		○	留鳥
45	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	留鳥
46			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			○	留鳥
47			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ			○	冬鳥
48			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ		○	○	留鳥
49	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ			○	留鳥
50			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ		○	○	留鳥

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(2/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献	渡り 区分
					繁殖期	越冬期		
51	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ			○	旅鳥
52		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		○	○	夏鳥
53		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ		○	○	夏鳥
54		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○		○	留鳥
55		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○	○	留鳥
56			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス			○	留鳥
57			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	留鳥
58		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ			○	冬鳥
59		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	留鳥
60			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○	○	留鳥
61			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥
62		ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	ヒバリ			○	留鳥
63		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ		○	○	夏鳥
64			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○	夏鳥
65			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ		○	○	夏鳥
66		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥
67		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥
68			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ		○	○	夏鳥
69		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥
70		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ		○	○	夏鳥
71		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥
72		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ			○	留鳥
73		レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク			○	冬鳥
74		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○	○	○	留鳥
75		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ			○	留鳥
76			<i>Agropsar philippensis</i>	コムクドリ			○	旅鳥
77		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○	留鳥
78		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○	冬鳥
79			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ		○	○	夏鳥
80			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○		○	冬鳥
81			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ			○	旅鳥
82			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ			○	冬鳥
83			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ			○	旅鳥
84			<i>Luscinia calliope</i>	ノゴマ			○	旅鳥
85			<i>Luscinia cyane</i>	コルリ			○	旅鳥
86			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○		○	冬鳥
87			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ			○	冬鳥
88			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ			○	旅鳥
89			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ			○	留鳥
90			<i>Muscicapa griseisticta</i>	エゾビタキ			○	旅鳥
91			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○	○	夏鳥
92			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ		○	○	夏鳥
93			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ		○	○	夏鳥
94	スズメ		<i>Passer montanus</i>	スズメ			○	留鳥
95	セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ			○	留鳥
96			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ			○	留鳥
97			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ			○	留鳥
98			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ			○	冬鳥
99	アトリ		<i>Fringilla montifringilla</i>	アトリ	○		○	冬鳥
100			<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○	○	留鳥

表 8-1 現地調査・文献調査の確認種(3/3)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献	渡り 区分
					繁殖期	越冬期		
101	スズメ	アトリ	<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○		○	冬鳥
102			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ			○	冬鳥
103			<i>Loxia curvirostra</i>	イスカ			○	冬鳥
104			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○		○	冬鳥
105			<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	シメ			○	冬鳥
106			<i>Eophona personata</i>	イカル		○	○	留鳥
107		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ		○	○	留鳥
108			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○	冬鳥
109			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○		○	冬鳥
110			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○		○	冬鳥
111	(キジ)	(キジ)	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ			○	外来
112	(ハト)	(ハト)	<i>Columba livia</i>	カワラバト(ドバト)			○	外来
113	(スズメ)	(チメドリ)	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○	外来
	18目	44科	113種		23種	33種	113種	



表 8-2 現地調査・文献調査の重要種

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査		文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
					繁殖期	越冬期				
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ			○		DD	
2	コウノトリ	コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	コウノトリ			○	国内希少	CR	
3	ペリカン	サギ	<i>Bubulcus ibis</i>	アマサギ			○			VU
4	ツル	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	クイナ			○			NT
5			<i>Porzana fusca</i>	ヒクイナ			○		NT	VU
6	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○		○			NT
7	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	ヨタカ			○		NT	VU
8	チドリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	ケリ			○		DD	NT
9			<i>Charadrius placidus</i>	イカルチドリ			○			VU
10			<i>Charadrius dubius</i>	コチドリ			○			NT
11		シギ	<i>Gallinago gallinago</i>	タシギ			○			NT
12			<i>Tringa ochropus</i>	クサシギ			○			NT
13			<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			○			NT
14	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ			○		NT	
15		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ			○		NT	CR+EN
16			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○			VU
17			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ			○		NT	
18			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○		NT	NT
19			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○		○	国内希少	VU	CR+EN
20			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○			NT
21			<i>Nisaetus nipalensis</i>	クマタカ	○		○	国内希少	EN	CR+EN
22	フクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	フクロウ			○			NT
23			<i>Ninox scutulata</i>	アオバズク			○			VU
24	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			○			NT
25	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○		○	国内希少	VU	
26	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ			○		EN	
27		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ	○				VU	VU
28		ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	ヒバリ			○			NT
29		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			○			NT
30		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○		○			NT
31		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ			○			NT
32		カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	カワガラス			○			NT
33		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			○			NT
34			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○		○			VU
35		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			○			NT
	12目	22科	35種		7種	0種	34種	4種	14種	29種

CR+EN：絶滅危惧 I 類 絶滅の危機に瀕している種  
 EN：絶滅危惧 I B 類 (EN) IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種  
 VU：絶滅危惧 II 類 絶滅の危険が増大している種  
 NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種  
 DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

## 9. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2019」(2019年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014年, 大阪府)
3. 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019年1月, 環境省報道発表資料)
4. 「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)
5. 「大阪府鳥類目録 2016」(2017年, 日本野鳥の会大阪支部)
6. 「鳥類目録 2015年10月～2020年9月」(2021年, 堺野鳥の会)
7. 「平成21年度槇尾川ダム自然環境保全対策検討業務委託報告書」(2010年, 大阪府)
8. 「槇尾山鳥獣保護区指定調査報告書」(2010年, 大阪府)
9. 「槇尾山自然観察マップ」(2000, Nature Network 和泉)
10. 「西国三十三所巡礼の旅 槇尾山」  
(西国三十三所札所会, [http:// www.saikoku33. gr. jp/place/4](http://www.saikoku33.gr.jp/place/4))
11. 「和泉市の自然」(2018, 和泉市)
12. 「大阪の生物多様性生物ホットスポット-多様な生き物たちに見える場所-」(2016年, 大阪府)
13. 「日本産爬虫両生類標準和名リスト」(2020年, 日本爬虫両棲類学会)